

産経新聞2014年1月23日朝刊

◀胃ろう回避へ口腔リハビリに注目▶

社会保障

「ほんの少しでも口から食べたい」「もう一度、口から食べたい」。胃に管で直接栄養を送る「胃ろう」に疑問の声が高まっている。年齢や疾患によって食べる機能には差があるが、再び口から食べるようにしたり、胃ろうにせずに済んだりする取り組みが注目されている。(佐藤好美)

東京都小金井市にある「日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック」は、昨年10月に開設された。歯科医で院長の菊谷武・日本歯科大学教授は「一口から食べる」治療を外来と訪問で行う。患者は開設後1年で約1500人になった。

診察ではまず、患者の「かむ」「飲み込む」機能を評価する。そのうえで食べ物について、どんな形状が必要か、どんな姿勢で食べさせるか、などをアドバイスする。1人暮らしの患者には機能以外の要素も考慮する。「スプーンで魚の煮付けを食うなら、ムリな



胃ろう回避へ口腔リハビリに注目



乳酸菌飲料を飲む要介護の女性を診察する菊谷院長。東京都三鷹市。

「ほんの少しでも口から食べたい」「もう一度、口から食べたい」。胃に管で直接栄養を送る「胃ろう」に疑問の声が高まっている。年齢や疾患によって食べる機能には差があるが、再び口から食べるようにしたり、胃ろうにせずに済んだりする取り組みが注目されている。(佐藤好美)

東京都小金井市にある「日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック」は、昨年10月に開設された。歯科医で院長の菊谷武・日本歯科大学教授は「一口から食べる」治療を外来と訪問で行う。患者は開設後1年で約1500人になった。

診察ではまず、患者の「かむ」「飲み込む」機能を評価する。そのうえで食べ物について、どんな形状が必要か、どんな姿勢で食べさせるか、などをアドバイスする。1人暮らしの患者には機能以外の要素も考慮する。「スプーンで魚の煮付けを食うなら、ムリな

飲料を飲む音を聴診器で聞く。「ああ、でも、飲めてますね。むせていないか」と。そのうえで患者の様子を見ながら、「日々の食事量の減退を訴えた」「すく」「要らない」として「アム」を吐き出した。昨日の朝はペースがゆとりで半量。厚は「アム」を吐き出した。夜は「アム」を吐き出した。食が落ちたら、いつもより「アム」を吐き出した。菊谷院長は女性に乳がん、食が落ちたら、いつもより「アム」を吐き出した。

もアドバイスする。クリニックが在宅患者に口腔リハビリを行う意義について、菊谷院長は「患者さんが病院や施設などに移っても、僕らが訪問することで継続的に口腔リハビリを続けられる。施設や病院スタッフと連携していい。地域包括ケアの実現にもなる。実際に胃ろうが取れなくなり、施設との連携で肺炎にさらされる人が減る。ケアも変わる」という。

「介護食」市場規模とニーズに乖離

藤田保健衛生大学の東口高志教授の監修で、イーエヌ大塚製薬が在宅介護を行う全国1000人に行った調査では、介護の必要な人が笑顔を見せるのは「話し相手をしたとき」(51%)に続いて、「何かを食べるとき」(41%)が挙がった。

ただ、要介護の状態が重くなるほど食べさせることに介護負担も増す。「家族と同じもの(常食)を食べる」割合は、要介護5では17%に落ち込む。しかし、市販の介護食がうまく取り入れられているかどうかは定かでない。民間シンクタンクの調べでは、現在の介護食品市場は1000億円だが、要介護者数などから試算される介護食品のニーズは2兆5000億円と乖離がある。個々の家庭では、介護食の選び方や入手方法で分からない点が多いとみられ、課題は多い。

村上一枝先生(五十四回卒) ソラプチミスト社会貢献賞受賞

長年にわたりアフリカのカラ自立支援活動にたずさわる本学五十四回卒の村上一枝先生に、このたびソラプチミスト日本財団から社会貢献賞が贈呈された。

ソラプチミスト財団は、管理職、専門職についている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動を行っている。村上先生は、一九九二年に「カラ」西アフリカ自立協力を設立、現地の人たちの自立支援のために尽力していることが、今回の受賞となった。

第三十四回贈呈式は、

「口から食事」回復に診療報酬で評価へ

厚生労働省は平成26年度の診療報酬改定で、胃ろうの患者にリハビリを実施し、口からの食事ができるまでに回復させた医療機関に診療報酬上の評価を行う方針。どんな医療機関にどんな条件で実施するかは未定だが、安易に胃ろうにしたり、リハビリもせずに放置する現状を是正したい考えだ。

医療経済研究機構が胃ろうを作った病院に行った調査では、胃ろうにした患者の24%はその後リハビリなどで経口摂取に戻ることがあった。だが、介護保険施設に入所した胃ろうの患者で、胃ろうを使用せずに済むようになったのは2%。また、経口摂取に戻った可能性のある患者に、自院でも退院先でも嚥下機能訓練を実施しない医療機関は19%に上った。

昨年十一月十二日に新潟市の朱鷺メッセで開催され、全国から関係者二千五百名余が列席した。村上先生には、特に社会貢献賞の中でも日本財団の初代理事長の名を冠した最高の栄誉である「嘉代子賞」が贈られた。

新潟病院口腔外科 佐久間助手受賞

新潟病院口腔外科の佐久間要助氏が、第三十二回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、学術優秀ポスター賞を受賞した。受賞演題は、「口腔扁平上皮癌に対する抗CD1D5ST法

新潟病院口腔外科 佐久間助手受賞

新潟病院口腔外科の佐久間要助氏が、第三十二回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、学術優秀ポスター賞を受賞した。受賞演題は、「口腔扁平上皮癌に対する抗CD1D5ST法

新潟病院口腔外科 佐久間助手受賞

新潟病院口腔外科の佐久間要助氏が、第三十二回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、学術優秀ポスター賞を受賞した。受賞演題は、「口腔扁平上皮癌に対する抗CD1D5ST法

秋の叙勲で瑞宝中綬章を

鴨井名誉教授の叙勲

本学名誉教授の鴨井久一先生は、昨年十一月の叙勲で瑞宝中綬章を

秋の叙勲で瑞宝中綬章を

鴨井名誉教授の叙勲

本学名誉教授の鴨井久一先生は、昨年十一月の叙勲で瑞宝中綬章を

秋の叙勲で瑞宝中綬章を

鴨井名誉教授の叙勲

本学名誉教授の鴨井久一先生は、昨年十一月の叙勲で瑞宝中綬章を

秋の叙勲で瑞宝中綬章を

鴨井名誉教授の叙勲

本学名誉教授の鴨井久一先生は、昨年十一月の叙勲で瑞宝中綬章を

表彰状を手にする佐久間助手

新潟病院口腔外科 佐久間要助氏

新潟病院口腔外科の佐久間要助氏が、第三十二回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、学術優秀ポスター賞を受賞した。受賞演題は、「口腔扁平上皮癌に対する抗CD1D5ST法

薬理学講座 (東京) 筒井教授 (新潟) 木村教授 最終記念講義

生命歯学部薬理学講座の筒井健機教授の最終記念講義は、昨二〇一三年十一月六日午後五時三十分より九段ホールで開催された。演題は「①細胞がんの初期変化、②化学発がん研究、③フックナトリウム研究」。

筒井教授は昭和四十三年三月本学卒業(第五十七回卒)、本学大学院

歯科衛生士のための

インスツルメンテーション

解剖学的ポイントと臨床ケースからわかる 納得のテクニック

著 小森朋栄(東京短期大学非常勤講師)・塩浦有紀, ほか

執筆協力 高橋英登・花村裕之・遠山佳之, ほか

■インスツルメンテーションに役立つ歯根形態の解剖学的ポイントを部位別に解説。
■実際の臨床例から、インスツルメンテーションの詳細な操作を豊富なビジュアルイメージで図解。

A4変判・112頁・オールカラー 定価(本体3,700円+税)

株式会社ヒョーロンパブリッシャーズ 〒101-0048 東京都千代田区神田町2-9-3 第25中央ビル Tel.03-3252-9261~4 Fax.03-3254-3876

平成26年度 歯学会大会のお知らせ

◇日時:平成26年6月7日(土)10:30~17:00(予定)

◇会場:日本歯科大学生命歯学部 富士見ホール

◇メインテーマ「咀嚼による健康寿命の延伸」

※特別講演では、遺伝因子があっても食事でコントロールしうることを見出し、またWHOの協力を得て循環器疾患と栄養との関係について世界調査を行った家森幸京都大学名誉教授に食と健康について、講演していただきます。

大会長 志賀博(生命歯学部歯科補綴学第一講座)
問い合わせ:準備委員長 横山正起(歯科補綴学I)
Tel 03(3261)8311 内線2470
e-mail: hotetsu1@tky.ndu.ac.jp

薬理学講座

中原泉学長から筒井教授(左)に記念品が手渡された

新潟の薬理学講座メンバーに囲まれ、花束を手にする木村教授(中央右)

歯学研究科を修了、歯学部薬理学教室助手、講師、助教授を経て、六十二年に教授に就任。

歯学会長などを歴任した。新潟生命歯学部薬理学講座の木村智彦教授の最終記念講義は、一月二十七日午後二時四十分より、アイヴィホールで開催された。演題は「循環器系作用薬」。

木村教授は昭和四十二年三月東北大学医学部薬学卒業、東北大学薬学部助教授を経て、平成七年四月本学新潟歯学部薬理学講座教授に就任。先端研究センター所長などを歴任した。